

手をつなぎ、
住み続けたい
まちづくりに向けて



コロナ禍における社会教育のあり方



会議で出された 社会教育におけるコロナ禍での課題

イベントが2年連続で中止になってしま
うと今まで続いていたものの継承が難しい。

地域活動で知り合った子ども達とすれ
違ふと挨拶が返ってきたが、地域活動
がない今はそのようなことがない。

コロナ禍における対応を、行政・教育機関、
各種団体等で整理して記録できているか。

地域活動が止まってしまった。

スポーツなどの体験型学習は、
オンラインだけでは限界がある。

人と繋がれないことが
苦痛になっている方が多いのでは。

知の循環が
コロナ禍で停滞してしまった。

コロナ禍で、
地域で交流する機会が減った。



コロナ禍における社会教育のあり方

人材・人づくり

人と人との繋がり

リモート会議もコロナ禍で対面できないから浸透してきたもので、今までよりも気軽に頻繁に会議をすることができるようになった。コロナ禍では、ワクチン差別という問題も指摘されている。ワクチン接種をしなければ集まりに参加できないなどの状況になった場合、ますます好きな人は好きな人同士で集まることを助長し、社会的断絶を生むのではと感じる。

災害時には地域にいる中学生の存在は大きく、「あなたたちの存在は大きく地域の重要な一員なんだ」という認識を持ってもらうことが必要だ。このコロナ禍の状況でも多くの地域の方たちと触れ合ってみてみたいと思う子もおり、小さくても多くの繋がりを作り、自分たち家族だけで生活しているのではなく、地域の色々な人達の中で生活しているということが解ってもらえるといい。

ゆるやかなネットワークから地域学校協働活動を

前期社会教育委員会議^{*1}では、地域の各種団体がゆるやかなネットワークで繋がることの大切さを提言したが、これらの各種団体をまとめるリーダーの負担はこれから大きくなるかもしれない。リーダーの負担を軽くするため具体的な活動は各種団体の構成員が支えていくのが理想的だ。学校行事は学校だけのものとして捉えられているが、「地域の行事」として意識を持つと、地域や学校行事に関わることに繋がるのではない。

*1 2018・2019年度社会教育委員会議

社会教育施設

心の健康と誰もが安心して活動できるように

行事などは、中止にする選択もあるが、各地区でも安心・安全に配慮して工夫しながら実施できる方法を模索したい。やり方を工夫した事例として、豊田公民館で実施しているナイトウォーク^{*2}がある。例年は子どもたちを何人かのグループに分けて実施していたが、今回からは受付時間も密にならないよう時間をずらし家族毎の単位とすることにした。

コロナ禍で集まるのが難しい状況だったが、地域の公民館のロビーやラウンジスペースが地域住民や子どもたちが気軽に立ち寄り情報交換できる触れ合いの場であってほしい。

*2 地域発見や地域の人たちとの触れ合いを目的に夜間に行う探検

知的な資源を地域に還元する、学びたいときに学べる

社会教育だからこそ、当事者としてコロナ禍で苦しんでいる我々の現状を公民館や家庭でインタビューをするなどし、無形の物として記録を未来に残していきたい。お祭りなどの準備の工程を動画資料として記録するなど、地域のアーカイブ化を進め、未来の子どもたちに伝承していこう。地域に根ざした公民館で、学芸員や図書館司書と連携した事業をさらに展開してみるのもよいのではない。博物館での動画配信や図書館での電子図書館の取り組みにも目を向けたい。このコロナ禍を契機にして、地域にしながら、知的資源を簡単に入手できるようになり、これらを活用することで巨大な知のストックとして、地域に還元されるだろう。

ICT



ちいき情報局等を利用して情報発信

- 幅広い世代の参画を図るために

シニア向けのパソコンやスマホ講座は市から機器を借りることもできることから、シニアに人気がある。自ら情報収集する手段の一つに取り入れてほしい。ICTが進むにつれ、個人の情報リテラシーは、当たり前身に付け、使いこなさなければいけない能力となっている。大人が責任を持って情報リテラシーの問題を子ども達に働き掛けることが大事だ。

- 人のあたたかさが広がる地域

ちいき情報局は、地域の良い所を発信する方法である。コロナ禍で地域活動が停滞しているときこそ、心温まるような地域の情報をより積極的に掲載していけるといいのではない。

また、さまざまな分野の連携事例をちいき情報局を使って発信していくと、地元だけでなく、広域に発信でき、社会教育の範囲を超えた広い分野との連携も期待できる。

無料 Wi-Fi スポットの設置

公民館でインターネットにつながる拠点を構築し、誰もが情報収集や情報発信、情報交換が手軽に行える環境があるといいのではない。

ちいき情報局



日常的に平塚市内の地域の情報を見ることが出来る地域向けの交流・情報提供サービスで、コミュニティの活性化を図るとともに、地域の各種団体の連携を強化するためのホームページです。お住まいの地域の情報を入手できるほか、市内の各地域で行われている防犯、防災、子育て等の取り組み事例を調べ自分たちの地域の参考にすることができます。

新たな方策を模索していく柔軟さ

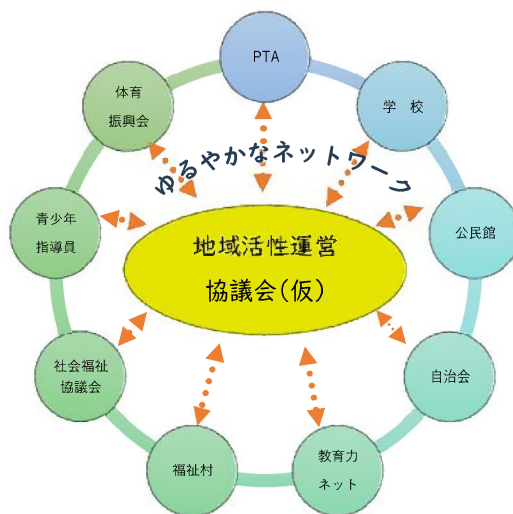
前期社会教育委員会議では、地域で活動している様々な団体がゆるやかなネットワークによって繋がり、地域の課題等の共有や解決に向けて知恵を出し合えるような仕組みがあるのではないかと提言している。

このコロナ禍を経験して、あらゆる分野で活動の停止や自粛を余儀なくされ、人と人との繋がりがとても尊いものであることを改めて実感することになった。

コロナ禍において急速に浸透したりリモート会議は、上手に活用することができれば、移動する時間等の削減や遠隔地の人と繋がることができ、大変有効なものである。ウィズコロナでは、感染状況に応じて対面とリモートをハイブリッドにうまく活用し、人と人との繋がりを保ち続けていくことが大切ではないか。

また、人と人との繋がり方は多様化しており、デジタル化に対応するためには、社会教育施設等でのWi-Fi環境の整備が必要不可欠になると考える。一方、デジタル化への対応が難しい方へのフォローとして、初心者向けのパソコン・スマホ講座など学習の機会を提供していくことも必要になるだろう。

コロナ禍においてなかなか活動できなかったことを契機に地域のお祭りやイベント等を動画で記録することで地域のアーカイブ化を進め、未来に伝承していくことも大切ではないだろうか。コロナ禍を契機に本当に必要なことを精選していく中で、弱い立場の人が蔑ろにされないことがないだろうか、本当に必要なものは何なのか等、大事なものを見極めて新しいことを進めていくことを期待したい。



▲ 前期報告書のゆるやかなネットワークのイメージ図



▲ 小学校で給食の時間にリモートにより再開された読み聞かせ



▲ 家族単位で参加を募り開催したナイトウォーク (公民館主催事業)



▲ ソーシャルディスタンスを保った地域と大学の交流事業

